

新会長に就任して



小田村四郎

去る五月の総会において阿川弘之会長が辞任され、不肖私が後任の会長に選任されました。阿川会長には一昨年十二月の本会発足以来、会の充実に格段の御努力を賜り、日台交流の緊密化、各地支部の設立、著名講師を招いての研究会開催等、順調に成果を挙げて来られました。今回、御高齢を理由として会長を辞されましたが、引き続き名誉会長として本会を御指導頂くことになっております。私も前会長の後を継いで微力ながら大任を果たして参りたいと考えておりますので、会員の皆様には前会長同様の御支援、御協力をお願いする次第です。

本会の使命は李登輝氏の透徹した日台運命共同体理念に共鳴し、その速やかな実現と両国の鞏固な結合を図ることにあります。そのためには二つの条件が考えられます。

第一は、我が国が台湾を正統な独立主権国家として認知し、正規の国交を回復し、台湾の国際社会への復帰を支援することです。残念乍ら政官界や報道界の現状を見ますとその実現は容易ではありませんが、国民大多数がこれを支持していることは疑いありません。何よりも日台両国の緊密化が我が国の安全保障にとって不可欠であることを政府、国民に銘記させる努力を続けていくことが必要です。

第二の条件は、台湾国民の国民的アイデンティティの確立です。李登輝氏はかねてからこれを繰返し主張して来られ、台湾正名運動として取組んで来られました。去る二月二十八日の南北を貫く「人間の鎖」（手護台湾）は二百万を超える参加者を数え、私共に深い感銘を与えました。幸いに三月の総統選で陳水扁総統が再選され、台湾の国勢が安定したことは何よりの喜びです。これを機会に、私共は李登輝氏の活動をできるだけ支援し、日台交流の一層の緊密化を図っていきたいと思います。

最後に、世界最高の哲人政治家であり最大の親日家である李登輝氏の来日が速やかに実現されなければなりません。既に民間人となられた李登輝氏のヴィザ発給に何の支障もない筈です。外国からの圧力でこれが妨害されるとすれば、それは独立国家たるの実を否定することです。李登輝氏が「奥の細道」を心おきなく散策できるようにするため最大の努力を致したいと思えます。

小田村四郎（おだむらしろう）大正12年、東京生まれ。昭和22年、東京帝国大学法学部卒業後、大蔵省に入省。内閣官房内閣審議室長、防衛庁経理局長などを経て行政管理事務次官に就任。同53年、退官。その後、日本銀行監事などを経て拓殖大学第16代総長に就任（平成15年退任）。平成14年12月、本会設立と同時に副会長に就任し、同16年5月、会長に就任。主な著書に『占領後遺症の克服』、『今、この国を救うもの―教育改革』他。